

秦野市立渋沢小学校

研究テーマ：「考えを認め合い、ともに学びを深める児童の育成」
～自己肯定感の高まりを目指して～

1 実践の目的

昨年度に引き続き、粘り強く学びに取り組むためには土台となる「自己肯定感」が大切であると考え、自己肯定感の高まりを目指して研究を進めていくこととした。

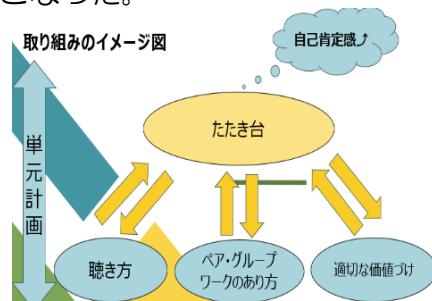
2 実践の内容

(1) 研究方法

ア 授業公開と授業検討

各学年を一つのブロックとし、ブロックごとに指導案を検討し授業公開をおこなった。授業の検討にあたっては、「自己肯定感の高まり」に向けて

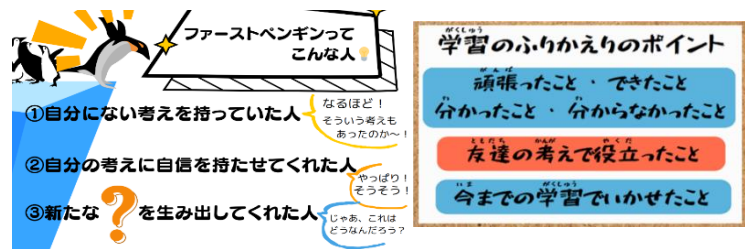
- ・児童の考えや疑問を中心として学習理解を深めていく授業展開
- ・児童同士が互いの考えを交流しつながり合う場の工夫
- ・正答にとらわれずに自分の考えを表現するための振り返りの仕方や活用方法の工夫の3点を大切にして授業検討をおこなった。



イ 全校での取り組み

基礎学力の向上や自己肯定感の高まりを目指すために、振り返りの視点・仕方について校内で共有をし、学習の振り返り

とファーストペンギンの振り返り（学び方の振り返り）に取り組んだ。



(2) 研究の経緯

4月28日	令和7年度の研究について
6月19日	第3学年授業提案 全体協議
7月11日	第4学年授業提案 参加者による協議
8月24日	学びの基盤プロジェクト分析検討会
9月12日	小中合同学びの基盤プロジェクト分析検討会
9月26日	「子どもの意欲を引き出す教育活動とは」 (庄司一子先生による講演会)
10月3日	第5学年授業提案 参加者による協議
10月17日	「記号接地を助け、生きた知識を生むためのプレイフルラーニングの理論と実践」 (今井むつみ先生による講演会)
11月28日	第6学年授業提案 全体協議
12月4日	支援級授業提案 参加者による協議
12月17日	第1学年授業提案 全体協議
1月9日	「生きた知識を身に付けるために ～たつじんカードゲームを通して～」 (今井むつみ先生によるオンライン講演会)
1月15日	「生きた知識を身に付けるために ～たつじんカードゲームを通して～」 (今井むつみ先生による学習アドバイス)
1月21日	第2学年授業提案 参加者による協議
3月3日	令和7年度のまとめ

3 実践の成果と課題

(1) 成果

【振り返り】

- ・振り返りを紹介したり、発表したりすることで気持ちが高まり前向きになった。
- ・振り返り方を校内で共有した結果、文章で書ける子が増えてきた。やり込めばやり込むほど成果はある。振り返りを書くことが習慣になった。振り返りの仕方を知ることができて、書くスピードが上がった。
- ・初めは「難しかった」や「楽しかった」などの授業の感想が多かったが、授業で学んだことをもとに振り返ることができるようになっていった。
- ・振り返りが書きやすい単元では、「今までの学習を活かしたこと」や「今後日常生活で活かそうなこと」の項目などを書くことができていた。振り返りに抵抗感を持っている児童が、少しずつ書けるようになってきた。過去に学習したことと、本時で学習したことが結びついた時には、振り返りが良く書けていた。また、友だちと考えがつながっていた時(似ていた・違っていた)や日常生活と結びついていた時も、よく書けていた。

【たたき台】

- ・間違いや途中までの考えを言ってくれるようになった。
- ・誤答をたたき台とした場合、「なぜ違うのか」を考えるようになった。
- ・正答をたたき台とした場合、実はできていなかった子が正直に「その説明じゃわからない」と言えるようになった。
- ・児童の間違いを「M(みんなが)K(かしこくなる)K(かんがえ)」として拾い上げるなど、間違いを間違いとして取り上げるのではなく、ポジティブな言葉にリフレーミングし、価値づけをすることで子ども

もたちからも様々な意見が出てきた。

(2) 課題

【振り返り】

- ・ファーストペンギンで書かれない子へのフォロー。「自分は取り上げられない」と思っている児童は関心が薄いのだろうか。
- ・発言回数の多い子がファーストペンギンに選ばれることが多かった。
- ・授業の最後に振り返りを書かせる時間を取りづらい。

【たたき台】

- ・考えてほしいところの基礎知識がないと考えることもできない。
- ・課題によっては、子どもたちにとって簡単な場合もあるので事前の実態把握や教材研究が大切である。
- ・わからない子が「わからない」といえるようになった一方で、「どこまでわかっているのか」「どの部分がわからない」のか言語化することが難しい。
- ・たたき台の取り上げ方で授業の流れが変わるのは、指導者が意識しておかなければならないと感じた。



4 今後の展開

今年度の取組を生かして、今後も授業研究を行っていく。また、今井むつみ先生に御指導いただいたように、「たつじんテスト」で児童の様子を把握した上で、生きた知識を身に付けるためにも「たつじんカード」を使った実践を行い、児童の学力向上につなげていきたい。